

目標の進捗状況報告書

(2012年度・大学)

担当部局は ☆印の箇所を記入してください。

I. 評価項目・要素と担当部局

本シートの自己点検・評価を行う部局と項目・要素は次のとおりである。

対象部局	教育学部
大項目	9 教育研究等環境
中項目	
小項目	9.0.4 教育研究等を支援する環境や条件は適切に整備されているか。
要素	教育課程の特徴、学生数、教育方法等に応じた施設・設備の整備 ティーチング・アシスタント (TA) ・リサーチ・アシスタント (RA) ・技術スタッフなど教育研究支援体制の整備 教員の研究費・研究室および研究専念時間の確保

II. 目標の進捗評価と進捗状況報告(2012.4.30現在の進捗状況報告)

《進捗評価》

本項目において、2009年度～2013年度の中期的な「目標」と「指標」を次のとおり設定し、毎年度進捗状況の自己評価を行っている。進捗評価はA、B、C、Dの4段階とし、2012年4月30日現在における目標の達成度評価(2013年度の達成に対してどこまで進んだかの評価)を行った。A、B、C、D評価は目安として次のようなものである。

- A : 目標実現のための計画や方策などを適切に実行し、目標を達成している。もしくはほぼ達成している。
- B : 目標実現のための計画や方策などを概ね適切に実行しているが、まだ目標は達成していない。
- C : 目標実現のための計画や方策などを実行しているが十分ではなく、目標は達成していない。達成にはまだしばらく時間がかかる。
- D : 目標実現のための計画や方策などを実行していない。当然目標は達成していない。

2009年度に設定した「目標」	左記目標の「指標」	進捗評価				
		2009	2010	2011	2012	2013
1. 施設・設備の整備については、完成年度以降の教育学部再編計画に併せた整備計画を立案する。	→ 「将来ビジョン委員会の開催回数」	B	B	B		
2. 教育研究支援体制については、TAの配置の具体案を策定する。	→ 「TAの制度について検討のための委員会開催頻度と進捗状況」	C	C	C		
3. 研究倫理を遵守するために学内関連諸規程の周知徹底を図る。	→ 「教授会などを通して周知徹底の回数」	B	B	B		

☆

2010年度以降に設定した「目標」	左記目標の「指標」	2009	2010	2011	2012	2013
	→					
	→					

《進捗状況》

目標の進捗状況について次のとおり簡単に説明する。

目標1	将来ビジョン委員会及び各種WGの開催は20回を超え、将来の施設設備計画についても検討した。
目標2	毎週開催の学部長室会で大学院教務学生委員を中心に適宜検討したが、大学院生が少ないことなどから、TAの実施には至らなかった。教学補佐・教務補佐による授業内補助は大規模クラスにおいて継続して実施している。
目標3	引き続き教授会などで周知徹底を図った。
備考	

☆

《評価指標データ》

(特定項目データ)本項目は数量的なデータによる評価(現状分析)が可能のため、次のとおり指標を定め経年比較している。

【教育学部】			単位	2008	2009	2010	2011	2012	備考
指標1	教学補佐、実験実習補佐・教務補佐、 授業補佐の採用数	教学補佐	人		4	4	4	4	
		実験実習 指導補佐・ 教務補佐	人		5	5	6	7	
		授業補佐	人		0	0	0	0	
指標2	専任教員の担当授業時間(平均)	教授	時間		5.2	8.1	12.5	14.0	45分をもって1時間に換算
		准教授	時間		3.9	8.5	11.5	15.4	
		講師	時間		0.7	6.0	—	16.0	
		助教	時間		—	—	—	—	